

令和5・6年度 豊田市教育局 研究指定（特別支援教育）

安心して活動に**参加し**、 自分なりに「**できた**」 と**感じられる**子の育成

～ 大林スタイルによるインクルーシブな学校づくり ～



12:30 13:00 13:20 13:30 13:50 14:35 14:55 15:10 16:00 16:15

受付	研究概要の 説明 【体育館】	移動	つながり タイム 【全学級】	公開授業 【各教室】	移動	質疑応答 【体育館】	講演会 「令和の日本型学校が めざす教育の未来」 小倉 靖範 氏【体育館】	指導講評 閉会行事
----	----------------------	----	----------------------	---------------	----	---------------	--	--------------

令和6年11月21日(木)



豊田市立大林小学校

児童の実態

- 学級・学年への所属意識が強く、課題に対して、真面目に取り組める。
 - 高学年は低学年の面倒をよく見る。
 - △ 自己肯定感が低く、活動に対して受動的で自信がもてない児童が多い。
 - △ 学年間の交流や特別支援学級、国際教室との関わりはあるが、双方向での交流が十分でない。
- 言語や障がいなど、様々なニーズのある児童の割合が高い。

大林小学校 研究のグランドデザイン

社会からの要請

- ・実現すべき令和の日本型学校教育をめざす中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業の改善が求められる。
- ・共生社会の実現に向け、連続性のある多様な学びの場の充実が求められ、豊田市のインクルーシブ教育システムの理念に則った学校が求められる。

教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく生きる子
資質・能力の育成 豊かな人間性 健康・体力

研究主題

**安心して活 動に参加し、
自分なりに「できた」と感じられる子の育成**
～大林スタイルによるイン クルーシブな学校づくり～

めざす 子ども像

安心して活動に参加できる子

自分なりに「できた」と感じられる子

仮説 1

教育のユニバーサルデザインの2つの環境を整えることで、誰一人取り残されることなく、安心して活動に参加できるだろう。

手立て①教室環境のユニバーサルデザイン

- ・刺激になる掲示物の精選
- ・机の中に入れるものの精選
- ・学び方に応じた学習スペースの確保(5・6年)

手立て②人的環境のユニバーサルデザイン

- ・アセスメントを生かした学級づくり
- アセスメント
- エピソード記録 / hyper-QU (3～6年) / DLA (国際教室)
- コミュニケーションタイム
- つながりタイム(学級内交流) / 異学年交流 / いのべえタイム

研究の仮説

研究の手だて

仮説 2

学びの土台を整え、6年間の学びを段階的に設定することで、自分なりに「できた」と感じることができるだろう。

手だて③学びの土台を整える

- ・自閉症教育 7つのキーポイントを取り入れた活動
- ・自立活動の視点を教科等の支援に生かす

手だて④指導計画を整える

- ・6年間を見通した指導計画
- スタートカリキュラム／総合的な学習の時間を中心とした協働的な学び
- 自由進度学習を見据えた個別最適な学び
- ・交流及び共同学習
- 特別支援学級・国際教室による先行・反復授業



低 学 年

落ち着いて学校生活を過ごす
小さなお兄さんお姉さんとして活躍する



中 学 年

自分や仲間のことを知る
互いに気持ちよく過ごす



高 学 年

自分で最適な方法を選び取る
必要に応じて関わり合える

豊田市版インクルーシブ教育システム



理念 どの子も学習活動に参加している実感と達成感をもち、充実した時間を過ごせるようにすることを最も大切に
しつつ、居住地域の障がいのある子どもとない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことができる教育。

安心して参加するために 手だて① ～ 教室環境のユニバーサルデザイン ～

① 刺激になる掲示物の精選

見るべきものに注視し、集中しやすい環境を整えるために、教室内に掲示するものを精選する。児童が学習に向かうとき、話型のように学習のヒントになる掲示物は前面に残す。一方、学習とは直接関係のない掲示物（例：級訓、係活動、当番表等）は、児童にとって、学習の集中を妨げる刺激となる場合があるため、背面に掲示する。

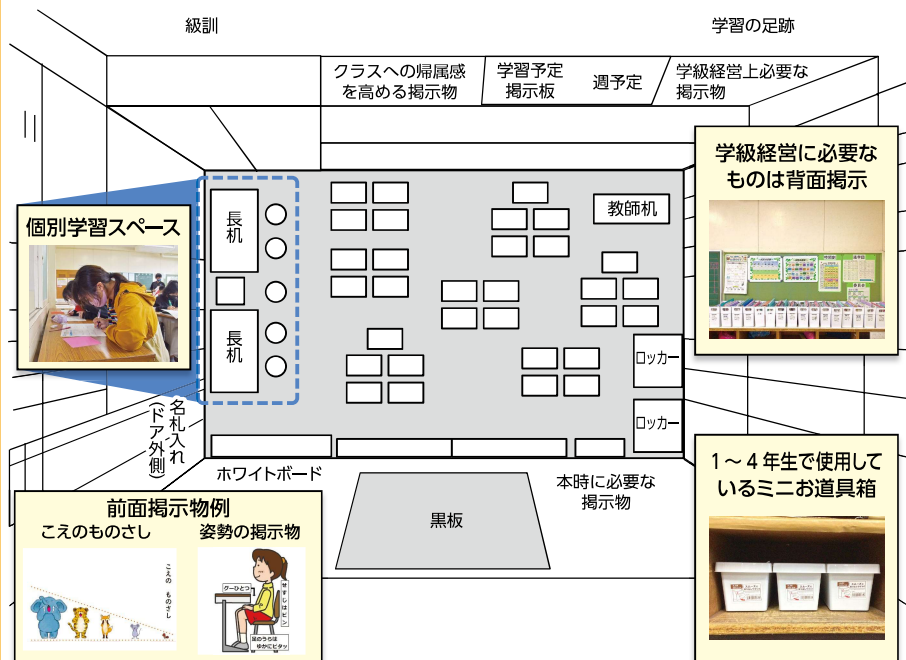
② 机の中に入れるものの精選

児童が今使うものに注力し、学習に集中しやすい環境を整えるために、学習用タブレットをはじめ、実際によく使うものを机に収納する。また1～4年生では、ミニお道具箱を活用して、必要な時のみ持ってくるようにすることで、机の中に入れるものを減らしている。

③ 学び方に応じた学習スペースの確保

教室環境の構造化を図る。誰もが自分に合った学び方ができる教室環境を整えるために、高学年では、教室の中に「個別学習スペース」を作るなど、「個別」「ペア」「グループ」のように、自分がどのように学びたいかにより、学び方を選ぶようにすることで、個のニーズに合った、よりよい学び方の実現をめざす。

教室環境 高学年 グループ（例）



成果と課題

- 机の中のを精選したことで、机上の整理がしやすくなり、落ち着いて授業に参加できた。
- 個別学習スペースを活用することで、自分に合った学び方で安心して最後まで学習に取り組めた。
- 学校全体で教室環境のデザインを統一したことによって、学年が上がっても児童が安心して学校生活を送ることができたが、各学級らしさを出すことが難しくなってしまった。今後は、より安心できる教室環境にするために、児童が主体的に教室環境づくりをできるようにしたい。

安心して参加するために 手だて② ～ 人的環境のユニバーサルデザイン ～

① アセスメント

日常生活の様子から児童の小さな変化に気づき、必要な支援につなぐことができるように、三つのアセスメントを行い、児童のプロフィールをできるだけ客観的に捉えられるようにしている。一つ目は、隔月で実施する「子どもを語る会」である。学年部間でその児童の困り感を共有し、支援が必要な児童について、何が気になるのか、周囲の児童とどう関わっているか等に着目した「エピソード記録」をつけている。二つ目は、3年生以上で実施する「hyper-QU」である。クラス集団や個人の様子を、客観的に把握し、よりよくしていくために、アセスメントの結果からコミュニケーションタイムなどの支援につなげていくようにしている。三つ目は、「DLA」である。外国につながる児童が、日本語を使って学習に参加する力があるか、アセスメントをすることを目的に行っている。

子どもを語る会の雛形▶

事例と対応	
①	②
③	④
⑤	⑥

エピソード記録で書く。

名前

学年・クラス

担任名

気になる傾向

上記の傾向

他の先生へのお願い

いのべえ

1年生

大林 太郎

長足の器用

右側スペースに立ちまわります。一歩進めると、後ろの先生への迷惑になります。

支援策は、

② コミュニケーションタイム

つながりタイム

安心して活動に参加できる関係づくりのため、週に1回、15分の帯時間（チャレンジタイム）で、学級の仲間と関わり合えるゲームを行う。

3～6年生は、hyper-QUの結果を参考にして、よりよい学級集団になるような、ゲームを選ぶようにしている。



異学年交流

低学年の児童が安心して学校生活を送るため、6年生を中心に1年生を迎える会や掃除の補助を行う。また、高学年の児童の自己肯定感を高めるため、企画委員（児童会）を中心に、異学年と関わり合えることができる遊びを企画し、ペア学年を組んで交流している。



いのべえタイム

特別支援学級の児童が様々な人との関わり方を体験的に学習する経験を増やすため、一緒に遊ぶ活動を行う。

この時間は特別支援学級が中心となり、みんなが楽しめる遊びを考え、司会や進行も行い、誰もが楽しめるようにしている。



成果と課題

- 丁寧なアセスメントをし、個に合った支援を実施することで、4月当初学級に不安感をもっていた児童も、安心して活動に参加することができた。
- コミュニケーションタイムを実施することで、児童同士のつながりや喜んでもらう経験が増え、他の場面でも、安心して関わり合う姿が多く見られた。
- hyper-QUの学級満足度尺度を見ると、学級生活不満足群に入る児童が少なからず存在する。今後は、一人でも多くの児童が、学級生活不満足群から学級生活満足群になるような支援を工夫していく。

「できた」と実感するために 手だて③ ～ 学びの土台を整える ～

① 「自閉症教育 7つのキーポイント」を取り入れた活動

大林小学校では、「できた」と実感しやすいように、**「通常の学級 7つのキーポイント 大林 Ver.」**を作成した。（指導案集に詳細）これを使用することで、どのキーポイントを補うべきであるか把握でき、具体的な支援を考えやすくなる。例えば、指示を聞いていなかったり、指示の内容が分からなかったりして、学習内容自体も分からなくなる児童がいる場合は、「通常の学級 7つのキーポイント 大林 Ver. 2 指示理解」の項目を参考にして、徐々に指示が聞けるようにするために、聞き方のポイントをカードにして見せたり、授業の流れを毎回掲示したりするなどの支援をする。



② 自立活動の視点を教科等の支援に生かす

自立活動の視点を教科等の支援に生かすために、全教職員で自立活動について学習機会を設けたり、特別支援学級の授業参観をしたりして、特別支援教育についての学習を行った。特別支援学級や通級による指導では、自立と社会参加に向けた力を身につけることができるように、個別の指導計画を立て取り組んでいる。自立活動の6区分27項目について、特別支援学級の担当教職員だけでなく、全教職員が学ぶことで、全ての児童の「学習を支える学び」に活用できるようにする。児童の「できた」を認められるように、年度当初に個別的教育支援計画や指導計画を担任同士で確認する。特別支援学級担当教員と通常の学級担当教員との情報共有を活発にすることで、自立活動の時間はもとより、学校教育活動全体を通して、学習の土台づくりを適切に行えるようにする。



成果と課題

- 「通常の学級 7つのキーポイント 大林 Ver.」をもとにした、一人一人の学びの土台を整える支援をすることで、教科の学習目標にせまる姿が見られることが増えた。
- 自立活動6区分27項目をふまえ、一人一人に必要な支援をすることで、自分なりに「できた」と満足している姿が見られることが増えた。
- 自立活動の視点を教科等の学習に生かす際、今年度は1年生と特別支援学級が中心に取り組んだ。今後は意識的に自立活動の視点に沿った支援を、2年生以上の学年にも取り入れていく。

「できた」と実感するために 手だて④ ～ 指導計画を整える ～

① 6年間を見通した指導計画

大林小学校では、6年間の学びを段階的に設定し、低・中・高の3段階の目標を明確にすることで、自分なりに「できた」と感じられるように指導計画を整えている。

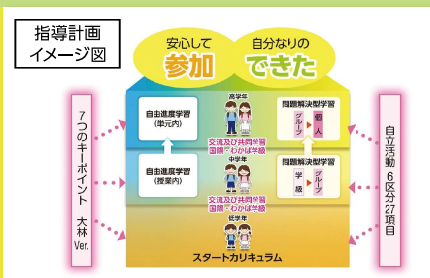
これまでは、こども園・幼稚園と小学校での生活の仕方が大きく違うため、小学校生活についていけず、不適応行動を起こしてしまう児童も少なくなかった。そのため、小学校への接続をなだらかにし、1年生全員が「学校で楽しい! 明日も行きたい!」と思えるようにしたいと考え、スタートカリキュラムを行うようにした。スタートカリキュラムとは、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成したカリキュラムである。加えて、遊びの環境整備や自由時間の増加など、学習環境を整備した。1年間を通して、コミュニケーションの機会を増やし、徐々に学習の時間を増やしていくことで、1年生として落ち着いて学校生活を過ごすことができる姿をめざす。

3年生からは、総合的な学習の時間を中心とした協働的な学びと、自由進度学習を見据えた個別最適な学びのレベルが徐々に上がるように、指導計画を整える。総合的な学習の時間を中心とした協働的な学びでは、低学年での学びの土台を生かし、他者と協働し、自分の知りたいことを探究できる姿をめざす。中学年では、学級の問いからグループの問いを見つけ、探究する。高学年では、中学年の経験を生かし、個人で探究していけるようにする。自由進度学習を見据えた個別最適な学びでは、3年生から発達段階に合わせて「授業内自由進度学習」「複数時間の自由進度学習」「単元内自由進度学習」など、徐々に児童が調整できる時間数を増やしていくことで、自己調整する段階を上げられるようにする。また、授業の進度だけでなく、どのように学ぶのか（学習方法）や誰と学ぶのか（学習形態）も児童自身が考えるようにし、学習の個別最適化を図っていく。



自由進度学習とは

自分で自分の学びを調整し、自分の学びの目的やペースを自分で試行錯誤しながら見定められるようにするために、教師が作成した「学習進度表」をもとに、児童が授業の「進度」を自分で考える。そして、各自が自分に最適だと考える学習計画を立て、実際の学習状況に合わせて学ぶペースを調整していく学習である。



② 交流及び共同学習（特別支援学級・国際教室）

障がいや言語・文化の違いなど、様々な特性のある児童が、自分の学級や交流学級で、自分なりの「できた」を感じられるようにする。特別支援学級では、個の実態に合わせながら、交流及び共同学習の内容等を設定し、対等な関係で双方向の関わりをめざす。国際教室では、日常会話学習を行ったり、教科と日本語の統合学習や学級の学習活動に参加するための「先行・反復授業」を行ったりする。個に合わせた指導計画を立て、交流及び共同学習を行っている。

成果と課題

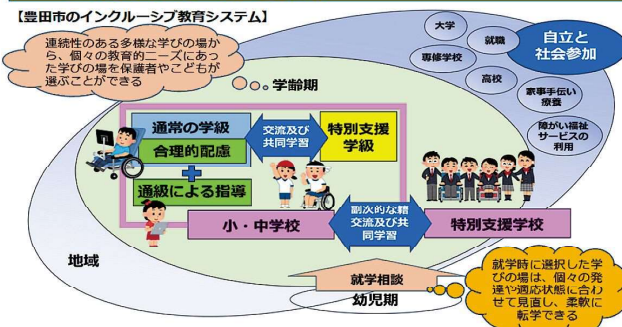
- スタートカリキュラムを行うことで、1年生は小学校の学習に少しずつ適応し、誰もが楽しめる楽しさを感じることができた。
- 6年間を見通して指導計画を設定するときに、低・中・高学年の2学年毎につけたい力を設定したが、学年毎の細かい指導計画が十分でなかった。今後は、学年毎の指導計画を作成し、よりスモールステップで「できた」が実感できるようにしたい。

豊田市のインクルーシブ教育について

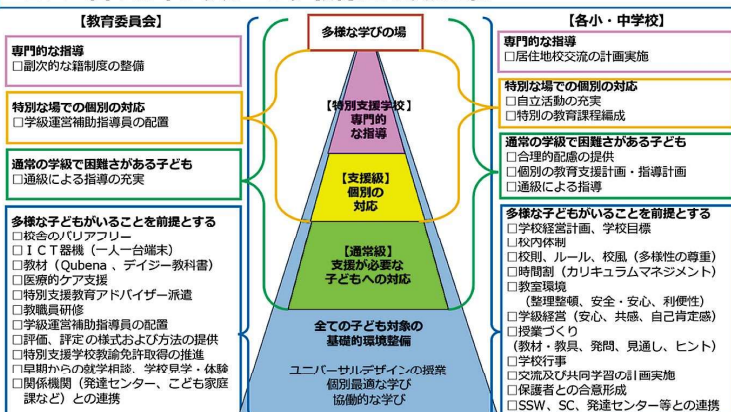
1. 豊田市のインクルーシブ教育システムへ選べる学びの場と学び方～

【理念】どの子ども学習活動に参加している実感や達成感を持ち、充実した時間を過ごせるようにすることを最も大切にしつつ、居住地域の障がいのある子どもとない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことができる教育。

【豊田市のインクルーシブ教育システム】



2. 豊田市のインクルーシブ教育に向けた整備



出典 豊田市教育委員会

公開授業

学 級	授業者	教科等	単元名	場 所
1の2	杉浦 舜	学級活動	ばらばらめりえをなおそう	1の2
1の3	末武 志織	国 語	のりものゴー ～のりものカードをつくろう～	1の3
2の3	猪塚日菜子	算 数	めざせかけ算マスター！九九モンスターゲットだぜ！	2の3
3の1	小松 菜美 安藤 誌洋	総 合	"すまいる"を広げよう ハッピー大作戦	3の1
4の1	安藤 仁美	総 合	地球があぶない！大林エコ大作戦	4の1
5の2	小田 暢子	国 語	和の文化を伝えよう	5の2
6の4	二村 充紀	理 科	てこを使いこなそう	第1理科室
わかば 3の3	酒井 優 松永 桃子 棚橋あい子 沼田 紘一	自立活動 総 合	"かかわる"って楽しいね！	わかば プレイ ルーム
国 際	小野 高明	総 合	地球があぶない！大林エコ大作戦（4の3先行学習）	国 際

講 演

演 題「令和の日本型学校がめざす教育の未来」

～大林小学校の挑戦を通して見えてきたこと～

講 師 小倉 靖範 氏

愛知教育大学 特別支援教育講座 准教授

愛知教育大学インクルーシブ教育センター センター長

愛知教育大学附属特別支援学校 特別支援教育総合アドバイザー



<参考文献>

「自閉症教育実践マスターブック」 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 編著 ジアース教育新社

「通常学級のユニバーサルデザイン プランZero」 阿部俊彦 編著 東洋館出版社

「学びを生活に生かす子どもの姿を求めて」 小倉靖範 監修 愛知教育大学附属特別支援学校 編著 ジアース教育新社

「エピソード語りで見えてくるインクルーシブ教育の視点」 青山新吾 著 学事出版